



三人旅 上

笑福亭 松鶴

カッタ 三遊亭 志ん藏

毎度旅のお話を申しますが、二人旅に極つて居りますが、此の度は三人旅を聞いていただきます。

「オイ清やん、待つてんか」

「喜いやん、朝早うから何を仕てたんや」

「今朝早う起きて、洗濯を仕たんや」

「旅をして宿屋で洗濯をしたりしいいなな」

「それがせんならん様になつたんや」

「何んでやね」

入つて床の間の前の畳を揚げて背中へ負ふて、尻を捲つてぐつぐつとして畳で押へて部屋へ歸つて、寢床へ這入つて寢ようと思ふと臭ふと臭うて寢られんね

「何んでやね」

「解らんがな、今朝起きて見ると着物に糞が附いたあるね」

「何處へしたんや」

「隣の部屋の床の間の前の畳や」

「彼處なら附くかわからん」

「附く様な事があるのか」

「私が宿へ着くなり便所へ行きとなつたんや、勝手が解らんので隣の部屋でしておいたんや」

「そんな無茶をしないな、私朝から洗濯をしてるがナ、然し清やん、お前も何んや夜通しバタ／＼仕てたなア」

「フンあれか、あらこうや、飯を喰ふて風呂へ這入つて

「マア聞いて清やん、飯を食ふ時に給仕に來た女中があらつたやろ」

「フン／＼、二十四五の」

「一寸澁皮の割けた女、彼女の尻をそをと抓つたんや」

「そんな事をしないな」

「色氣の無い奴やで、ぽんと肘鐵砲を喰はしやがつた、けつた糞が悪いので何ぞ仕返しを仕てやらうと思ふて飯を喰ふて廊下へ出たら隣の間が暗いので、そうと這

温もつて居ると、宿屋の女中が、甚い久し振りだんな、流しまへうかと風呂の中へ這入つて來よつたんや、私が大きにはぐかりさんと顔を出すと女中奴、違ふはテレクサやの、と出て行きよつたんで是れはおかしい具合やと風呂の隅に隠れて居ると、其處へ旅商人風の男が這入つて來た、すると今の女中が出て來て、要助はん最前貴郎やと思ふたら違ふ男が居て、あんなテレクサイ事はおまへなんだ、と云ふて風呂の中でいちやく／＼云ひよるね。その男が今晚私の部屋へ遊びにおいでいなと云ふと、妾は今晚下番で貴郎が何の部屋や解らんがな、そんなら此處に笛が二本ある、一つ渡しておくで用事が済んだら二階の梯子を上つた處で笛を吹き、私は此處やと云ふ知せに笛を吹くよつてに、と約束を仕てよるので、風呂から出るなり表へ出て一文笛を百かん買ふて來て、道者の泊つてゐる部屋へ行つて、へイ私は當家の若い者で、皆様方にチョつと申し上げま